特集 1

2013年1月31日 新春トップセミナー

開会挨拶
生産技術振興協会　理事長　伊東　一良

皆さん、こんにちは。生産技術振興協会の理事長を務めております大阪大学の伊東と申します。当協会主催の新春トップセミナーと交歓会にお集まりいただき、ありがとうございます。本日は京阪電鉄株式会社取締役相談役であり、大阪商工会議所会頭の佐藤茂雄様にご講演していただきます。その後に新春交歓会を開催いたしますので、お楽しみいただきたいと思います。

この1月16日頃にイスラム過激派のグループがアルジェリアで大変な事件を起こしました。会場にも世界で事業を展開している事業家の方がおられると思いますが、こういう方々にとっては、今回は非常に恐ろしい事件だと思われます。地の果てともいわれるサハラ砂漠の真ん中で事件が起こったわけですが、日本企業は世界中の隅から隅まで事業を展開し、グローバルに仕事を進めていたことを如実に示した事件であったとも思われます。

グローバルな展開と申しますと、日本人の生活もグローバル化して参りました。少し前まで、ガラケーといわれる携帯電話が流行っていまして、その頃は日本のメーカーが作っていました。電車に乗ると皆が一所懸命にボタンを押しておられました。最近は様子がガラッと変わり、スマホとかいう電話機のようなもののガラス面を、皆さん、指でなでておられます。我々中年世代もやっているようですが、指が動くというよりは、首をかしげながら悪戦苦闘されている姿が、ときどき見うけられます。スマホという製品はアメリカでデザインされて、韓国や台湾で製造される。それを日本人が使っているという、これもグローバル化した製品の典型と言えると思います。

このように我々の生活を含めグローバル化が進んでいるわけですが、日本でグローバル化が進んでいないものも幾つかございます。中でも、最も大事なものがリーダー育成の仕組みではないかと思っています。若い頃から優秀な人を抜擢して、それなりの教育をすることを日本人はあまりやってこなかった。どちらかと言えば派閥の競争を勝ち抜いた人が幹部になるということが、行われているように思われます。20年ほど前にマツダの経営が少しおかしくなり、フォードから社長さんが何人か順にやって来られたことがありました。私の記憶では、その3人目の方は38歳の若さでフォードから、マツダの社長に就任したと思いますが、当時その背景が理解できず、不快に思ったものです。しかし実は、この社長さんも、若い内から抜擢され、グローバルな市場で教育を受け、実績も踏まえてマツダに送り込まれたということでした。その社長さんは、ちゃんとマツダを盛り上げた後、今ではフォード本社のナンバー2になっておられ、もうすぐナンバー1になるだろうと言われています。若干51歳です。こうしたことをグローバルな会社であるフォードはやっているということです。一方で日本の大学などは、どちらかと言えば立派な学者の先生が選挙で選ばれて学長をやっておられる状況で、経営が本業ではないことは明

理事長　伊東　一良 氏

らかです。そうした意味で、大学も経営意識を変革しなければならないと思えます。

いろいろ申し上げましたが、いまお話しましたような身近な話題や重要な情報の交換に、生産技術振興協会のセミナー等を、今後、活用していただきたいと思っております。生産技術振興協会は60年以上の歴史がある協会です。年4回の機関誌を発行し好評を得ているほか、今回の新春セミナーを含めいろんなセミナーを開催しております。当協会の目的は、大阪大学と大阪地域の産業界が協力して科学技術を創出し、それを産業技術へと発展させようというものです。昨年は、大阪市立工業研究所の皆様と会員の方々との技術交流会を開催しました。また、フレンドシップサロンの第2回目を開き、大学の先生方と中堅・中小企業の方々との連携を図るという新しい試みも始めております。今年3月8日には、第3回目を予定しており、知財管理を中心にフレンドシップサロンを開こうと考えておりますので、是非ご参加いただきたいと思っております。また大阪大学を中心に、学生が海外で論文を発表する場合に、渡航費をサポートする奨励事業も再開しております。

冒頭でも申し上げましたが、本日は京阪電鉄の佐藤茂雄様に「大阪の産業の振興と街づくり」についてご講演していただき、その後に交歓会も用意しておりますので、短い時間ではございますが有効にお過ごしいただきますようお願いしまして、私の開会のごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。